

# 動労千葉

85. 8. 31

No. 2027

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)  
(鉄電)二五三五六(公衆)〇四七二(22)七二〇七

## 9.9~11 第10回 定期大会の成功を

### 渾身の實力反撃で中曽根を

### 打倒し、国鉄労働者の活路を拓こう

「自からの闘いで国鉄労働者の明日をきりひらこうノ未曾有の国鉄労働運動解体攻撃粉碎ノ反動・中曽根内閣打倒へ『国鉄』と『三里塚』を基軸に全労働者の怒りを結集し、総反撃に撃てようノ」をメインスローガンに、九月九日から三日間にわたり開催される動労千葉第十回定期大会は、極めて重要な大会である。全組合員の総決起で大会の圧倒的成功をかちとり、「自からの明日と未来は、自から自身の闘いで切り拓く」という気概に燃え、国鉄決戦勝利・反動中曽根打倒へ断固つき進もう。

#### 死活をかけ怒りの反撃に起て

今大会の成功にむけて確認すべき第一の点は、いよいよ国鉄労働者の生死をかけた決戦期が到来したということである。

7月26日の監理委答申は、87年4月までのあと一年七ヶ月の間に、約13万人の主要員合理化(5人に2人)を強行するとし①来年11月のダイ改時までに新会社に移る者と「過員」との選別を行なう、②そのうち18万3千人については新会社に再雇用し、③「過員」9万3千人については、さらに選別を行ない、新会社へ移す「過員」3万2千人、旧国鉄に残す4万1千人(実質的解雇)とにふり分ける、と言うのである。

まさに「解雇」を武器に国鉄労働者を二重三重に差別・選別し、屈服をせまり労働者の団結をぶちこわし、国鉄労働運動の解体を狙った断じて許せない攻撃である。

7月29日付読売新聞で「亀井委員長が今は辞めている国鉄幹部に『組合対策には分割・民営化しかない、がんばりましょうや』と話しかけた」と暴露されているが、労働者をさんざん食い物にした

第二に確認すべきことは、動労「本部」革マルを打倒・一掃する以外勝利の道はないということである。

国鉄攻撃に政治生命、「総決算」攻撃の成否をかける中曽根の攻撃は確かにすさまじい。しかし「一つの失敗も許されない」という発言に見られるように中曽根も決して余裕があるわけではない。従って、動労「本部」革マルの屈服と裏切りを水路としなければ、国鉄労働運動解体を完成することができないのである。ここに中曽根の弱点があるのである。

動労「本部」革マルは、今や資本の側に完全に階級移行している。資本の攻撃に屈服し、資本にすぎり、奴隷となってもかく自分だけ生き残ればよいという立場となり切っている。

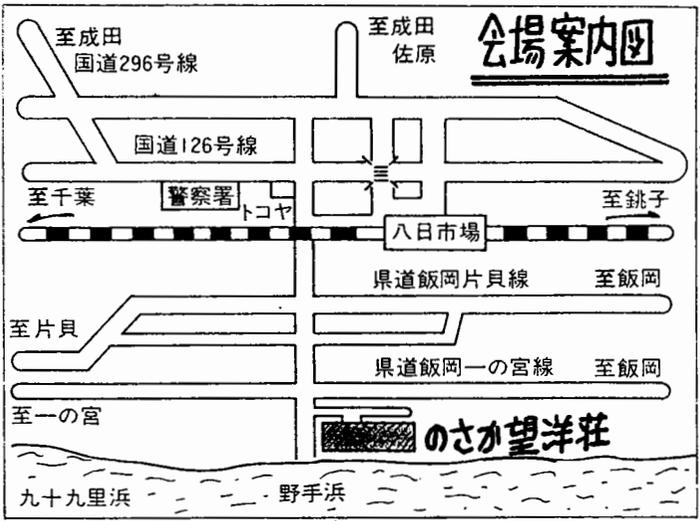
自組合の労働者を何の確証もない出向に追いやり、劣悪な労働条件下での強労働を強い、国労や動労千葉の労働者を当局に売り飛ばす動労「本部」革マルを労働者の階級的怒りで必ず打倒・一掃しなければならぬ。

#### 反動・中曽根打倒こそ勝利のカギ

第三に確認すべきことは、国鉄攻撃に勝利する最大のカギは中曽根打倒であるということである。中曽根は、大軍拡・国鉄攻撃・教育臨調・三里塚闘争破壊・国家機密法などの大反動攻撃をしかけ、国民を戦争へとかり出そうとしている。

既成労働運動や政党の屈服がこれに拍車をかけるものとなっている。情勢はまさに全労働者に選択をせまるものである。

そうであるがゆえに、われわれ国鉄労働者の勝利の展望があるといえる。この間の闘いで築きあげた全成果にふまえ、最大の焦点である「三里塚と国鉄」を基軸に断固闘いぬくことを通し、全労働者の怒りを結集し、中曽根打倒への巨大なウネリをつくり出そう。第十回大会で、真摯な討論を行い、未来を駆け闘いに決起しよう。



た上で、「組合対策だ」などと称し、労働者や家族を物か虫ケラのごとくあつかって恥じない亀井や中曽根を許してはならない。労働者が奴隷となることが、自からの生活や権利を守るべきを放棄する事である。「首切り」攻撃と対峙し労働者としての死活をかけた怒りの反撃に起たねばならない。

動労革マル追放・一掃